



自動車の機構について学ぶ自動車整備科の学生(右)と、建設業経理について学ぶオフィスビジネス科の学生(上)



気仙沼高等技術専門学校



木造建築の木組みについて学ぶ建築科の学生(右)と、電気工事の知識・技能を学ぶ電気科の学生(上)



大崎高等技術専門学校

こんな人材を育てている

2年課程の「木の家づくり科」を新設 伝統的な木造建築の技能習得を目指す

本校では来年度から、1年課程の建築科が、2年課程の「木の家づくり科」になります。住宅建築には、様々な様式がありますが、同科では日本の伝統的な木造建築に用いられる木材加工や木組みなどの技能について学び、「2級建築大工技能士」や「2級建築士」などの資格取得を目指します。「のこぎり」や「かん」など手工具の取り扱いや継手や仕口など木組みに使われる基本的な工法を一通り訓練した後、実物大の模擬家屋を製作します。多くのハウスメーカーや工務店が使う在来軸組工法を用い、学生は木材の加工や木組みの作業を分担しながら家屋を完成させた後、上棟式も執り行い、日本建築の伝統的風習についても学びます。

そして同科では、建築に必要な学科の知識を習得するほか、CADを用いた設計や2×4工法、林業体験、インターンシップなど幅広い実習を行います。設計からコンクリート基礎の施工、足場の組立て、床や壁、天井などの内部造作、外部の仕上げまで、木の家づくり全般についてじっくり学び、現場力を養成します。

建築大工に必要な資格取得と 技能競技全国大会を目指し技術を磨く

1年目で建築大工の基礎を身に付けた学生は、若年者ものづくり競技大会や技能五輪に挑戦します。これまでも、予選会で優秀な成績を残した学生が、翌年開催される技能競技大会の全国大会に出場しています。技能競技大会は、自分の腕を試すことができる貴重な場であり、学生は経験豊富な指導員のもとで訓練を重ね、技術を磨いていきます。

修了生は、地元の工務店を中心に就職し、建築大工として活躍しています。2年課程となる来年度からは、さらに多くの知識や技能を習得することができ、より就職に有利になると考えています。なお、さらに専門性を高めたい人の進路として、東北職業能力開発大学校(栗原市)の応用課程の受験資格を申請中です。



建築科1年 星 和希さん

自宅のリフォームに訪れた大工さんの姿にあこがれ、建築大工の専門的な技術を学ぶために入学しました。実習では、継手や仕口がぴったりと合わずとても苦労しましたが、小屋を完成させることができたとうれしかったです。自分の力で形あるものを作る喜びを、実感することができました。

確かな技術とサービスの心得を指導 自動車整備のプロを育成

「自動車整備科」では、機械・検査機器の取り扱いや整備作業(受入検査・分解・点検・組立・調整・完成検査・故障診断など)に必要な知識技能を習得するための訓練を、2年間かけて行います。

自動車の構造や機能の基本から、電子制御システムまで、自動車について幅広く学びながら、「2級自動車整備士」の資格取得を目指します。自動車整備の仕事は、チームワークが求められるため、日ごろのあいさつや訓練中の声かけ、明るく作業に臨むための心構えの徹底などについても指導しています。

最近では整備士がお客様への作業説明を行うなど接客対応するケースが増えたことから、接遇に必要なマナーや話法に関する訓練も時間をかけて行います。このほか、整備士に求められるガス溶接やアーク溶接などの関連する技能講習を実施しています。同科では、就職後の現場作業に生かせる、より実践に近い実技訓練を通して、様々な顧客ニーズに応えられるプロの整備士の育成を目指しており、平成24年度以降の就職内定率は100%の実績をあげています。

地元企業の経営に欠かせない ビジネススキル習得を目指す

「オフィスビジネス科」では、簿記会計・税務会計・パソコンソフト操作など、事務



オフィスビジネス科1年 千葉 友梨香さん

職に就くために必要な知識技能について1年間学びます。

どのような仕事でも、パソコン操作に関する知識と技能は必須の条件となっています。同科では、各種ビジネスソフトウェアの操作方法の習得をしながら、「日商PC検定(2級)」の取得を目指します。さらに「日商簿記検定(2級)」や「建設業経理事務士(3級)」などの資格取得に向けた学習を行います。

どちらの科でも、カリキュラムに地元企業のニーズを反映しています。そして、震災後は「地元の復興の力になりたい」という学生が増えています。こうした地元の声にも応え、多くのスペシャリストを輩出できるように日々の指導にあたっています。



自動車整備科2年 佐藤 祐輔さん

自動車整備士に必要な資格を地元でとることができるため入学しました。入学して配られた厚い教科書を見て心配しましたが、実践的な内容を丁寧に指導してもらいわかりやすかったです。自動車整備は人の命に関わる仕事なので、緊張感を持って実習に臨みました。この気持ちを就職しても忘れないようにしたいです。



オフィスビジネス科修了生(平成27年度) 気仙沼商工会議所 渡辺 千絵美さん

商工会議所で、地元の中小企業を支援する仕事をしています。簿記の資格をはじめ、あいさつやマナーなどの学校で学んだ様々な知識が役立っていると痛感しています。電話応対や接遇は、学んだ通りにいかないケースばかりで苦労していますが、もっと経験を積んでさらに成長していきたいです。



自動車整備科修了生(平成22年度) 宮城三菱自販株式会社 小野寺 卓也さん

在学中、仲間と競いながら訓練した経験が、就職先でも「整備士が協力して作業をする」という意識の定着に生かされました。また、エンジンなどを分解する実習は、とても貴重な体験でした。今の仕事では、エンジンなどを分解する作業はめったにないため、お客様に症状の原因を説明する際に、当時の知識が役立っています。



大崎高等技術専門学校 1962年に開校。現在、建築科と電気科の2学科を設置し、これまで数多くのものづくりのスペシャリストを送り出している。平成29年度より、建築科を2年課程とした「木の家づくり科」が新設される

所在地 大崎市古川米倉字上屋敷51 TEL 0229-22-1357 FAX 0229-22-8627 http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/oskogi/



気仙沼高等技術専門学校 1962年に開校。現在、自動車整備科とオフィスビジネス科の2学科を設置している。気仙沼・本吉地域の基幹産業を担う人材育成を目的に、基本的な技能に関する知識の習得と技能訓練を実施。産業経済界のニーズに対応するべく、訓練内容の充実に努めている

所在地 気仙沼市大峠山1-174 TEL 0226-22-7068 FAX 0226-22-3410 http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-kougi/



建築科修了生(平成26年度) 株式会社遊佐建築 佐藤 大輔さん

小さい頃から人が住む建物を作りたいという夢を持っていたので、工業高校を卒業後、大工の技術や知識を身に付けるために入学しました。実習で学んだ継手や木組みの手法は、就職先でも活用しています。また、先輩から技術について学ぶときも、専門的な用語を理解することができ、覚えやすかったです。



建築科修了生(平成24年度) 城北住建 高橋 康広さん

父親が大工をしていることもあり、実家で働くためにここで本格的に建築について学びました。材料や道具の扱い方もよく分らないところからのスタートでしたが、1年間の訓練で技能の基本を身に付けることができました。一人前になって棟梁になるのが目標です。仕事に励みさらに腕を磨いていきたいと思っています。